

iRMC

リモートマネージメントコントローラ

目次

はじめに	3
本書の表記	3
Windowsの操作	4
商標および著作権について	5
1 リモートマネージメントコントローラ	6
1.1 IPアドレスの設定	6
1.2 iRMCにログインする	7
1.3 言語の変更	9
2 iRMCユーザーアカウント	10
2.1 新しいユーザーアカウントの作成	10
2.2 ユーザーアカウント名／パスワードの設定	12
2.3 ユーザーアカウントの権限設定	13
2.4 ユーザーアカウントの無効化	14
2.5 ユーザーアカウントの削除	15
3 電源管理	16
3.1 電源制御の設定	16
3.2 電源投入時刻の設定	18
4 IDランプの遠隔操作	19
4.1 IDランプの点灯／消灯	19
5 ネットワーク設定	20
5.1 イーサネット設定 (IPアドレスの設定)	20
5.2 セッションタイムアウト時間の設定	22
5.3 DNS設定	23
5.4 ネットワーク設定の初期値	24
6 センサー確認	28
6.1 ファンの状態を確認する	28
6.2 温度センサーの状態を確認する	29
7 システムイベントログ (SEL)	31
7.1 システムイベントログ (SEL) を確認する	31
7.2 システムイベントログ (SEL) を削除する	32
7.3 エラーメッセージ	33
8 E-mail通知	34
8.1 E-mail通知の設定	34
8.2 テストメールの送信	38
8.3 テストメールとE-mail通知の確認	39
8.4 主な送信E-mail内容一覧	45
8.5 E-mail設定の初期値	46

はじめに

このたびは、弊社の製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本書では、iRMC（リモートマネージメントコントローラ）の設定について説明しています。
お使いになる前に本書をよくお読みになり、正しくお使いください。

本書の表記

本書の内容は2015年7月現在のものです。お問い合わせ先やURLなどが変更されている場合は、『取扱説明書』をご覧になりお問い合わせください。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。 必ずお読みください。
 POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【**Ctrl**】キー、【**Enter**】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつなぎで表記しています。

例：【**Ctrl**】 + 【**F3**】キー、【**Shift**】 + 【↑】キーなど

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：コントロールパネルの「システムとセキュリティ」をクリックし、「システム」をクリックし、「デバイスマネージャー」をクリックする操作

↓

「システムとセキュリティ」→「システム」の「デバイスマネージャー」の順にクリックします。

■ 画面例およびイラスト

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。

■ 製品名の表記

本文中では、製品名称を次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記	
iRMC (リモートマネージメントコントローラ) を搭載したESPRIMO	コンピューター	
iRMC (リモートマネージメントコントローラ) を搭載したCELSIUS		
Windows 8.1 Enterprise	Windows 8.1	
Windows 8.1 Pro		Windows
Windows 7 Enterprise	Windows 7	
Windows 7 Professional		

Windowsの操作

■ アプリ画面 (Windows 8.1)

インストールされている、すべてのプログラムを表示させる画面です。

次の操作で表示することができます。

1 スタート画面左下の  をクリックします。

■ 「コントロールパネル」 ウィンドウ

「コントロールパネル」 ウィンドウの開き方が、Windows 8.1とWindows 7で異なります。

次の手順で「コントロールパネル」 ウィンドウを表示させてください。

□ Windows 8.1の場合

1 **【Win】 + 【X】** キーを押し、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。

POINT

- ▶ 次の操作でも表示することができます。
 - ・ アプリ画面 (→P.4) から表示する場合
 1. 「Windows システム ツール」の「コントロールパネル」をクリックします。
 - ・ 「スタートボタン」から表示する場合
 1. 画面左下隅の「スタートボタン」を右クリックし、「コントロールパネル」をクリックします。

スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせるとWindowsのマークが表示されます。

□ Windows 7の場合

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。

■ ユーザーアカウント制御

本書で説明しているWindowsの操作の途中で、「ユーザーアカウント制御」 ウィンドウが表示される場合があります。これは、重要な操作や管理者の権限が必要な操作の前にWindowsが表示しているものです。表示されるメッセージに従って操作してください。

商標および著作権について

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。
その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

Copyright FUJITSU LIMITED 2015

1 リモートマネージメントコントローラ

本コンピューターには、リモートマネージメントコントローラ（以降、iRMC）が搭載されています。

iRMCには、コンピューター本体のOSや電源の状態に関係なく、温度やファンの監視や、故障時には保守ランプを点灯させて通知する機能が搭載されています。

また、iRMCにはネットワークからログインすることができ、次の項目を確認できます。

- ・コンピューターのファンの状態確認
- ・コンピューターのセンサーの温度確認
- ・コンピューターのシステムイベントログ（エラーログ）

☞ 重要

- ▶ 本書で説明している設定項目以外は、設定を変更しないでください。
設定を変更した場合、本コンピューターの状態が確認できることや、正常に動作しないことがあります。

1.1 IPアドレスの設定

iRMCのIPアドレスを設定します。

☞ 重要

- ▶ ご購入時はDHCPを使用する設定になっています。固定IPアドレスを使用する場合、設定を行ってください。
- ▶ 「5 ネットワーク設定」(→P.20) のネットワーク設定もご覧ください。後から設定したもののが優先されます。
- ▶ BIOSセットアップの起動、終了方法については、コンピューター本体の『製品ガイド』をご覧ください。

- 1 BIOSセットアップを起動します。
- 2 「IPMI管理」メニューを選択します。
- 3 「iRMC LAN設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4 「IPアドレス設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 5 「固定アドレスを使う」を選択し、【Enter】キーを押します。

6 次の設定をそれぞれ選択し、【Enter】キーを押します。

- ・IPアドレス
- ・サブネットマスク
- ・ゲートウェイアドレス

 **POINT**

- ▶ DHCPを使用している場合は、DHCPサーバーにより割り当てられたIPアドレスが表示されます。

7 指定するネットワークアドレスをそれぞれ入力し、【Enter】キーを押します。

8 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。

1.2 iRMCにログインする

ネットワークを利用して監視するコンピューターから、本コンピューターに接続します。

 **重要**

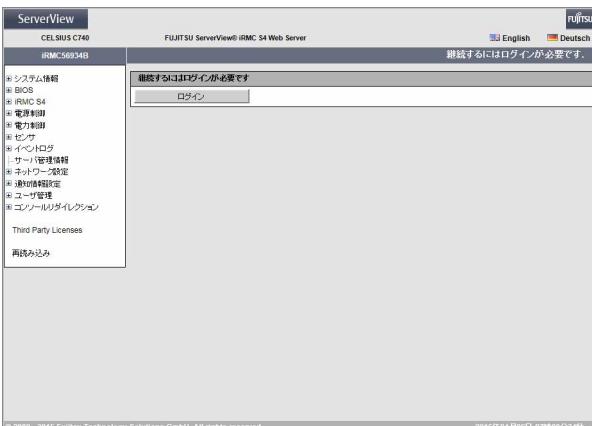
- ▶ LANコネクタ2に接続したネットワークからのみ、接続することができます。

1 iRMCにログインするコンピューターを、iRMCと同じネットワークに接続します。

2 ログインするコンピューターからWebブラウザーを起動します。

3 Webブラウザーのアドレス欄に、設定した固定IPアドレス、またはDHCPサーバーから割り当てられたIPアドレスを入力し、【Enter】キーを押します。
「1.1 IPアドレスの設定」(→P.6)で設定したIPアドレスを入力してください。

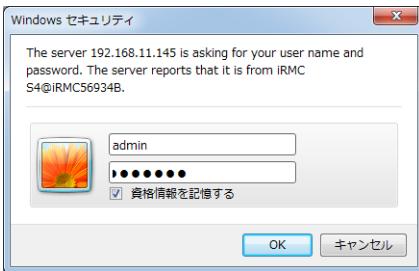
4 「ログイン」をクリックします。



パスワード入力画面が表示されます。

5 次のユーザー名とパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

- ・ユーザー名（ご購入時）：admin
- ・パスワード（ご購入時）：admin



iRMCにログインします。

POINT

- ▶ ユーザーアカウントを設定することができます。
詳しくは、「2 iRMCユーザーアカウント」（→P.10）をご覧ください。

1.3 言語の変更

iRMCの画面表示を、英語から日本語に変更します。

- 1 iRMCにログインします（→P.7）。
- 2 画面右上の  日本語 をクリックし、画面表示を日本語に変更します。
- 3 画面左部のツリーメニューから「iRMC S4情報」をクリックします。
「iRMC S4情報」が表示されていない場合は、ツリーメニューから「iRMC S4」の「+」をクリックして、下位メニューを表示してください。



- 4 「iRMC S4 その他のオプション」の「デフォルト言語」を日本語に変更します。
iRMC WEB-UIに接続したときの言語が日本語に変更されます。

English	言語を英語（English）に設定します。
日本語	言語を日本語（Japanese）に設定します。

☞ 重要

- ▶ 言語の変更は、iRMC S4設定変更権限があるアカウントで実施してください。
設定変更権限については、「2.1 新しいユーザー アカウントの作成」（→P.10）をご覧ください。

2 iRMCユーザーアカウント

本コンピューターは、iRMCのすべての設定許可を持つ「管理者アカウント」が用意されています。

ご購入時の「管理者アカウント」の設定は次のとおりです。

- ・ユーザー名：admin
- ・パスワード：admin

重要

- ▶ 「管理者アカウント」は、iRMCの様々な設定を変更する権限を持っています。最初にログインしたときになるべく早く新しい「管理者アカウント」を作成して、ご購入時の「管理者アカウント」のパスワードを変更するか、無効化することをお勧めします。
- ▶ ご購入時の設定のままいると、第三者に勝手にiRMCの設定を変更されるおそれがあります。
- ▶ パスワードを変更する場合は、変更後のパスワードを絶対に忘れないようにしてください。
- ▶ ユーザーアカウント情報の編集は、ユーザーアカウントの変更権限を持つアカウントから実行してください。すべてのユーザーアカウントからユーザーアカウントの変更権限を削除すると、ユーザーアカウントの変更ができなくなります。
- ▶ すべてのユーザーアカウントを無効にした場合、iRMCにアクセスできなくなります。すべてのユーザーを無効にしないでください。
- ▶ iRMCへのログインは、LANアクセス権が必要となります。すべてのユーザーアカウントからLANアクセス権限が削除された場合、iRMCのWEB-UIにログインできなくなります。
- ▶ ユーザーアカウント／パスワードの忘却、およびユーザーアカウントの設定ミスなどにより、ご購入時のユーザーアカウントに戻す場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。修理は、保証期間にかかわらず有償になります。

2.1 新しいユーザーアカウントの作成

- 1 iRMCにログインします (→P.7)。
- 2 画面左部のツリーメニューから「iRMC S4ユーザ管理」をクリックします。
「iRMC S4ユーザ管理」が表示されていない場合は、ツリーメニューから「ユーザ管理」の「+」をクリックして、下位メニューを表示してください。

The screenshot shows the 'iRMC S4 ユーザ情報' (User Information) table with two entries:

IPMI	SNMPv3	ID	名前	説明	LANアクセス権	シリアルアクセス権
（未）	（未）	2	admin	User 02 Description	OEM	OEM
（未）	（未）	3	testuser	NewUser Description	Administrator	ユーザ管理

Below the table, a note in Japanese reads: '注: SNMPv3ユーザを作成/変更するには、ネットワーク設定 ⇒ SNMPにてSNMPを有効にする必要があります。' (Note: To create or change a SNMPv3 user, you must enable SNMP in the network settings ⇒ SNMP.)

3 「ユーザの新規作成」をクリックします。

新規にユーザーIDを作成する場合は、ユーザーID3から作成されます。
ユーザーID1はiRMCの仕様でリザーブIDとして予約されており、使用できません。

4 次の項目を入力します。

新規ユーザの構成

名前:	<input type="text"/>
パスワード:	<input type="password"/>
確認用パスワード:	<input type="password"/>
ユーザの説明:	<input type="text" value="NewUser Description"/>
IPMI設定	
IPMI有効:	<input checked="" type="checkbox"/>
LANアクセス権限:	<input type="button" value="ユーザ管理"/>
シリアルアクセス権限:	<input type="button" value="ユーザ管理"/>
ユーザアカウント変更権限:	<input type="checkbox"/>
iRMC S設定変更権限:	<input type="checkbox"/>
AVR使用権限:	<input type="checkbox"/>
リモートストレージ使用権限:	<input type="checkbox"/>
使用シェル(Textアクセス):	<input type="button" value="Remote Manager"/>
SNMPv3構成	
SNMPv3有効:	<input type="checkbox"/>
アクセス権:	<input type="button" value="読み取りのみ"/>
認証:	<input type="button" value="SHA"/>
暗号化:	<input type="button" value="AES"/>

適用

名前	作成するアカウントのユーザー名を入力します。 半角英数字で16文字以内。
パスワード	アカウントのパスワードを入力します。 半角英数字（大文字／小文字）で20文字以内。 ※ パスワードは必ず設定してください。
確認用パスワード	確認のため、上記のパスワードを再入力します。
ユーザの説明	作成するユーザーの一般的な説明を入力してください。 半角で31文字以内。または、全角で15文字以内。
IPMI有効	作成するユーザーアカウントを有効にする場合に、チェックを付けます。チェックを外すと、作成したユーザーアカウントが無効になります。
LANアクセス権限	ユーザーがLAN経由（WEB-UI）でiRMCに接続するときの権限を選択してください。 初期値：ユーザー管理 アクセス権は「ユーザー管理」が最も低く、「Operator」、「Administrator」、「OEM」の順に権限が高くなります。 ※ 権限が「ユーザー管理」の場合、次の機能は使用できません。 ・システムイベントログ（SEL）の削除
シリアルアクセス権限	本項目は変更しないでください。 初期値：ユーザー管理 ※ 本コンピューターは、シリアルポートからの接続はサポートしていません。
ユーザアカウント変更権限	iRMCのユーザーアカウントの設定を変更する権限を指定します。 ユーザーアカウント設定を変更されたくない場合は、本項目のチェックを外してください。 初期値：チェックなし

iRMC S4設定変更権限	iRMCの設定を変更する権限を指定します。 iRMCの設定を変更されたくない場合は、本項目のチェックを外してください。 初期値：チェックなし
AVR使用権限	本項目は変更しないでください。 初期値：チェックなし ※ 本コンピューターはAVRをサポートしていません。
リモートストレージ使用権限	本項目は変更しないでください。 初期値：チェックなし ※ 本コンピューターは、リモートストレージ機能をサポートしていません。
使用シェル(Textアクセス)	本項目は変更しないでください。 初期値：Remote Manager ※ 本コンピューターはTextアクセスをサポートしていません。
SNMPv3構成	本コンピューターはSNMPv3構成をサポートしていません。

- 5 「適用」をクリックして、アカウントを作成します。

2.2 ユーザーアカウント名／パスワードの設定

新規作成したユーザー アカウント／既存のユーザー アカウントのユーザー名および、パスワードを変更します。

- 1 iRMCにログインします (→P.7)。
- 2 画面左部のツリーメニューから「iRMC S4ユーザ管理」をクリックします。
「iRMC S4ユーザ管理」が表示されていない場合は、ツリーメニューから「ユーザ管理」の「+」をクリックして、下位メニューを表示してください。
- 3 設定を変更したいユーザー アカウントの「名前」をクリックします。

iRMC S4 ユーザ情報							
IPMI	SNMPv3	ID	名前	説明	LANアクセス権限	シリアルアクセス権限	
はい	いいえ	2	admin	User 02 Description	OEM	OEM	削除
はい	いいえ	3	testuser	NewUser Description	Administrator	ユーザ管理	削除
ユーザの新規作成							

- 4 「名前」に新しい名前、「パスワード」と「確認用パスワード」に、変更するパスワードを入力します。

iRMC S4 ユーザ情報	
名前:	<input type="text" value="testuser"/>
パスワード:	<input type="password" value="*****"/>
確認用パスワード:	<input type="password" value="*****"/>
説明:	<input type="text" value="NewUser Description"/>
適用	

- 5 「適用」をクリックして、設定を変更します。

2.3 ユーザーアカウントの権限設定

ユーザー アカウントの権限の設定を変更します。

- 1 iRMCにログインします (→P.7)。
- 2 画面左部のツリーメニューから「iRMC S4ユーザ管理」をクリックします。
「iRMC S4ユーザ管理」が表示されていない場合は、ツリーメニューから「ユーザ管理」の「+」をクリックして、下位メニューを表示してください。
- 3 権限設定を変更したいユーザー アカウントの「名前」をクリックします。

iRMC S4 ユーザ情報							
IPMI	SNMPv3	ID	名前	説明	LANアクセス権限	シリアルアクセス権限	
はい	いいえ	2	admin	User 02 Description	OEM	OEM	削除
はい	いいえ	3	testuser	NewUser Description	Administrator	ユーザ管理	削除
ユーザの新規作成							

- 4 「IPMI権限/許可」でユーザー アカウントの権限を変更します。
各項目については、「2.1 新しいユーザー アカウントの作成」の手順4をご覧ください。

IPMI権限許可	
IPMI有効: <input checked="" type="checkbox"/>	
LANアクセス権限: <input type="button" value="Administrator"/>	<input type="button" value=""/>
シリアルアクセス権限: <input type="button" value="ユーザ管理"/>	<input type="button" value=""/>
ユーザ アカウント変更権限: <input type="checkbox"/>	
IRMC S4設定変更権限: <input type="checkbox"/>	
AVR使用権限: <input type="checkbox"/>	
リモートストレージ使用権限: <input type="checkbox"/>	
使用シェル(Textアクセス): <input type="button" value="Remote Manager"/>	<input type="button" value=""/>
通用	

重要

- ▶ ユーザー アカウント情報の編集は、ユーザー アカウントの変更権限を持つアカウントで実行してください。

- 5 「適用」をクリックして、権限設定を変更します。

2.4 ユーザーアカウントの無効化

一時的にユーザーアカウントを無効にすることができます。

重要

- ▶ すべてのユーザーアカウントを無効化しないでください。
すべてのユーザーアカウントを無効化すると、WEB-UIにログインできなくなります。

- 1 iRMCにログインします（→P.7）。
- 2 画面左部のツリーメニューから「iRMC S4ユーザ管理」をクリックします。
「iRMC S4ユーザ管理」が表示されていない場合は、ツリーメニューから「ユーザ管理」の「+」をクリックして、下位メニューを表示してください。
- 3 パスワードを変更したいユーザーアカウントの名前をクリックします。
- 4 「IPMI権限/許可」で「IPMI有効」のチェックを外します。
- 5 「適用」をクリックすることで、パスワードが変更されます。

POINT

- ▶ ユーザーアカウントを有効にする場合は、「IPMI有効」にチェックを付けてください。

2.5 ユーザーアカウントの削除

使用しないユーザーアカウントを削除することができます。

重 要

- 必ず、LANアクセス権限とユーザー設定権限／iRMC設定権限を持つユーザーアカウントを1つ作成してください。また、そのユーザーアカウントは無効にしないでください。
- ユーザーアカウントを削除すると、元に戻すことはできません。
削除しても問題ないか、必ず確認をしてから実行してください。

1 iRMCにログインします（→P.7）。

2 画面左部のツリーメニューから「iRMC S4ユーザ管理」をクリックします。
「iRMC S4ユーザ管理」が表示されていない場合は、ツリーメニューから「ユーザ管理」の「+」をクリックして、下位メニューを表示してください。



3 削除したいユーザーアカウントの「削除」をクリックします。

iRMC S4 ユーザ情報						
IPMI	SNMPv3	ID	名前	説明	LANアクセス権限	シリアルアクセス権限
はい	いいえ	2	admin	User 02 Description	OEM	OEM
はい	いいえ	3	testuser	NewUser Description	Administrator	ユーザ管理
ユーザの新規作成						

4 オレンジ色に表示されたら、「削除確認」をクリックします。

iRMC S4 ユーザ情報						
IPMI	SNMPv3	ID	名前	説明	LANアクセス権限	シリアルアクセス権限
はい	いいえ	2	admin	User 02 Description	OEM	OEM
はい	いいえ	3	testuser	NewUser Description	Administrator	ユーザ管理
ユーザの新規作成						

ユーザーアカウントが削除されます。

3 電源管理

本コンピューターの電源制御管理を、システム管理者が遠隔で行える機能です。

☞ 重 要

- ▶ 本機能はシステム管理者のみ使用できます。

3.1 電源制御の設定

遠隔で行う電源制御方法を設定します。

1 iRMCにログインします (→P.7)。

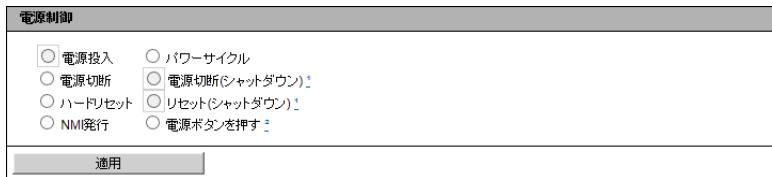
2 画面左部のツリーメニューから「Power On/Off」をクリックします。
「Power On/Off」が表示されていない場合は、ツリーメニューから「電源制御」の「+」をクリックして、下位メニューを表示してください。



☞ 重 要

- ▶ 「電源状態概要」、「起動オプション」の設定は、変更しないでください。本コンピューターでは、サポートしていません。

3 「電源制御」で遠隔で行う電源制御にチェックを付けます。



電源投入 ^注	本コンピューターの電源を入れます。
パワーサイクル ^注	本コンピューター上のOSから強制終了をし、しばらくして自動的に電源を入れます。
電源切断 ^注	本コンピューター上のOSから、強制終了します。
電源切断（シャットダウン）	本コンピューターではサポートしていません。
ハードリセット	本コンピューターではサポートしていません。
リセット（シャットダウン）	本コンピューターではサポートしていません。
NMI発行	本コンピューターではサポートしていません。
電源ボタンを押す ^注	コンピューターの電源ボタンと同じ動作をします。 電源ボタンを押す動作は、電源オフ状態、省電力状態、継続状態など、OSの電源ボタンの設定により異なります。

注：「適用」をクリックすると「実行しますか？」と表示されます。
実行する場合は「OK」を、実行しない場合は「キャンセル」をクリックしてください。

4 「適用」をクリックします。

3.2 電源投入時刻の設定

コンピューターの電源を、iRMCのタイマーで制御します。

- 1 iRMCにログインします（→P.7）。
- 2 画面左部のツリーメニューから「電源制御オプション」をクリックします。
「電源制御オプション」が表示されていない場合は、ツリーメニューから「電源制御」の「+」をクリックして、下位メニューを表示してください。



重要

- ▶ BIOSセットアップメニューのWakeup on RTCと、本設定は同期していません。それぞれ独立したタイマーで制御しています。
Wakeup on RTCについては、『製品ガイド』の「Wakeup on RTCを有効にする」をご覧ください。

- 3 「自動電源投入/切断時刻設定」で、自動で電源を入れる時刻を設定します。

自動電源投入/切断時刻設定	
電源投入時刻	電源切断時刻
<input type="text"/>	<input type="text"/>
hh:mm <input type="text"/>	hh:mm <input type="text"/>
SNMPトラップ <input type="text"/>	SNMPトラップ <input type="text"/>
【分】前にトラップ送信	
<input type="button" value="通用"/>	

電源投入時刻	本コンピューターの電源を、自動的に入れる時刻（0:00～23:59）を設定します。
SNMP トラップ	電源を入れる時刻になる前に、「SNMP トラップ」で設定した分数前にSNMP トラップ（0～255）を送信します。
電源切断時刻	使用できません。 OSのスケジュール機能で電源を切ってください。（OSの強制終了で動作するためデータが壊れるおそれがあります。）

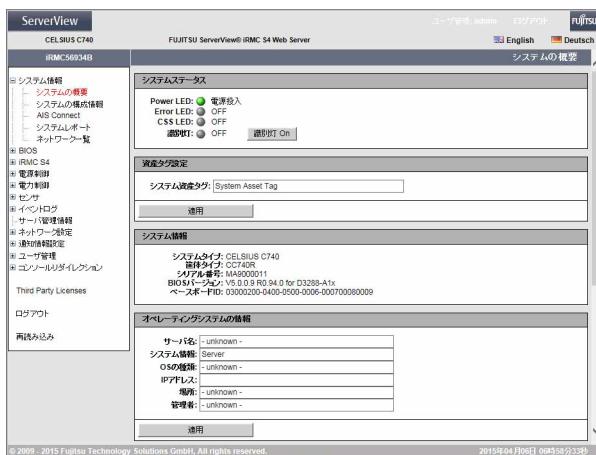
- 4 「適用」をクリックします。

4 IDランプの遠隔操作

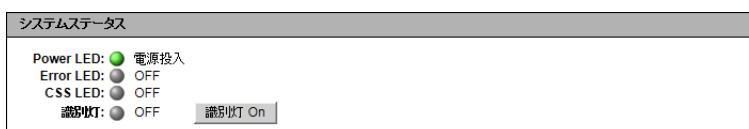
コンピューター本体前面および本体背面にあるIDランプは、WEBインターフェースから遠隔で点灯／消灯させることができます。これにより、障害が発生した場合に、本装置をラックから素早く識別することができます。

4.1 IDランプの点灯／消灯

- 1 iRMCにログインします (→P.7)。
- 2 画面左部のツリーメニューから「システムの概要」をクリックします。
「システムの概要」が表示されていない場合は、ツリーメニューから「システム情報」の「+」をクリックして、下位メニューを表示してください。



- 3 「システムステータス」の「識別灯」の横にある「識別灯 On」または「識別灯 Off」をクリックします。



「識別灯 On」をクリック	コンピューター本体前面および背面のIDランプが、青色点灯します。
「識別灯 Off」をクリック	コンピューター本体前面および背面のIDランプが、消灯します。

5 ネットワーク設定

システム管理者がIPアドレス、WEBインターフェース、DNSの設定を行います。
ご利用になるシステムやネットワーク環境に合わせて設定してください。

■ 重 要

- ▶ 設定を誤ると、外部から本コンピューターのiRMCへ接続できなくなります。
その場合、BIOSセットアップメニューからIPアドレスを指定し直す必要があります。
ご注意ください。

5.1 イーサネット設定 (IPアドレスの設定)

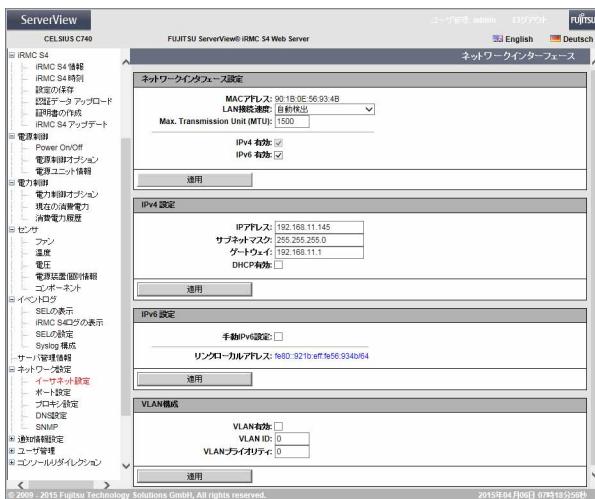
iRMCの「IPアドレス」、「サブネットマスク」、「ゲートウェイ」の設定を行います。
本設定は、「1.1 IPアドレスの設定」(→P.6) のBIOSセットアップメニューで行う設定と同じです。

POINT

- ▶ 本設定とBIOSセットアップメニューでの設定は連動しています。後から設定を変更した結果が優先されます。

1 iRMCにログインします (→P.7)。

2 画面左部のツリーメニューから「イーサネット設定」をクリックします。
「イーサネット設定」が表示されていない場合は、ツリーメニューから「ネットワーク設定」の「+」をクリックして、下位メニューを表示してください。

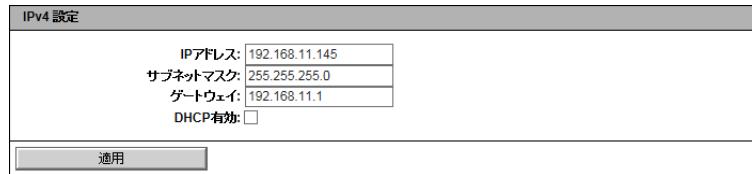


3 「IPv4設定」の設定をします。

固定IPの場合は、次の3項目に入力します。

- ・IPアドレス
- ・サブネットマスク
- ・ゲートウェイアドレス

DHCPの場合は、「DHCP有効」にチェックを付けます。



4 「適用」をクリックします。

「適用」クリック後は、入力したIPアドレスに変更されます。新しいIPアドレスでiRMCにログインしてください。(→P.7)

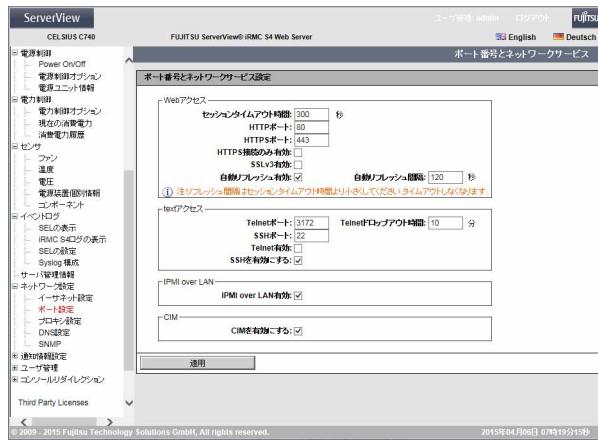
重要

- ▶ 新しいIPアドレスでiRMCにログインできない場合、iRMCのIPアドレスの入力を誤ったか、接続できないIPアドレスを設定した可能性があります。
この場合、「1.1 IPアドレスの設定」(→P.6)に従い、BIOSセットアップメニューからIPアドレスを設定し直してください。
- ▶ IPv4設定以外の項目はサポートしていません。設定を変更しないでください。

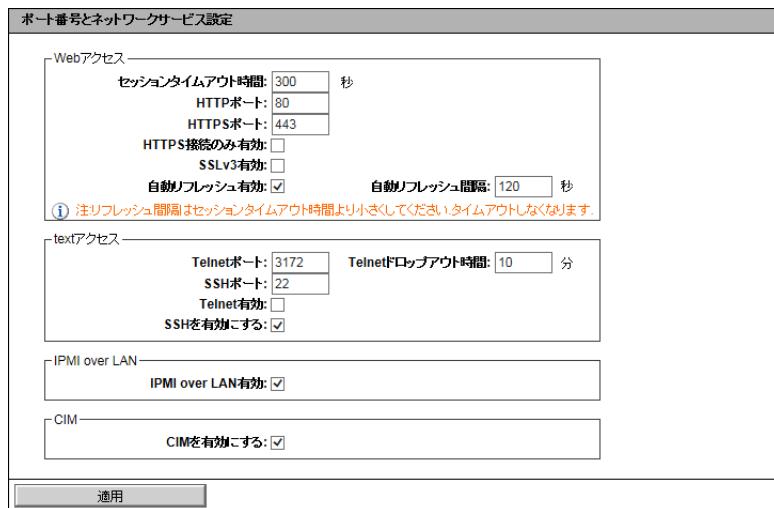
5.2 セッションタイムアウト時間の設定

イーサネット設定後に、自動で接続が切断されるまでの時間を指定します。

- 1 iRMCにログインします (→P.7)。
- 2 画面左部のツリーメニューから「ポート設定」をクリックします。
「ポート設定」が表示されていない場合は、ツリーメニューから「ネットワーク設定」の「+」をクリックして、下位メニューを表示してください。



- 3 「セッションタイムアウト時間」の数字(秒)に、タイムアウトするまでの時間を入力します。



- 4 「適用」をクリックし、設定を反映します。



- ▶ 「Webアクセス」設定項目は、「セッションタイムアウト時間」以外の変更はしないでください。

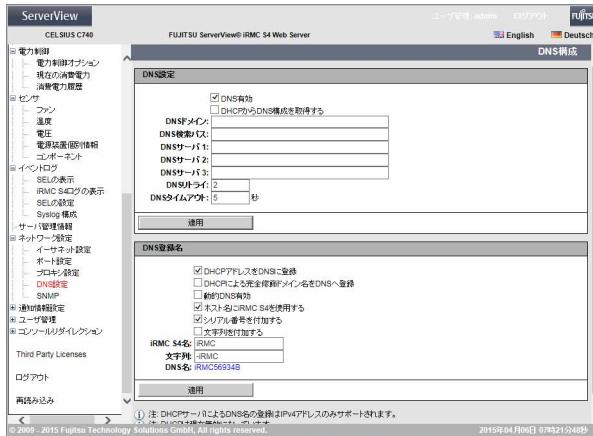
5.3 DNS設定

iRMCのドメインネームサービス (DNS) を有効にできます。これにより、IPアドレスではなく具体的なDNS名を使用できるようになります。

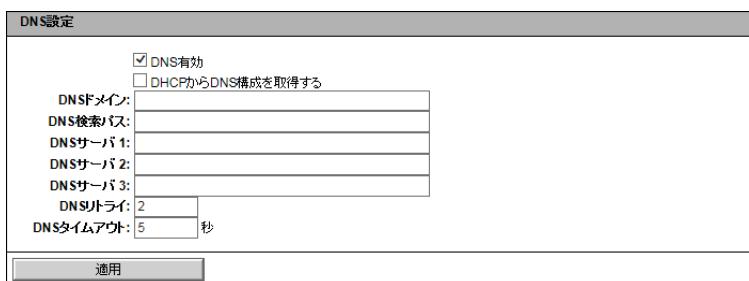
重要

- ▶ DNSサーバーが存在しない場合や、DNSを使用しない場合は本設定の変更はしないでください。

- 1 iRMCにログインします (→P.7)。
- 2 画面左部のツリーメニューから「DNS設定」をクリックします。
「DNS設定」が表示されていない場合は、ツリーメニューから「ネットワーク設定」の「+」をクリックして、下位メニューを表示してください。



- 3 DNS設定を有効にする場合「DNS有効」にチェックを付けます。
ご購入時はチェックが付いています。



4 DNS構成を自動取得する場合「DHCPからDNS構成を取得する」にチェックを付けます。

ご購入時はチェックが付いています。

DNSサーバーのIPアドレスは、DHCPにより自動取得されます。

POINT

- ▶ DNS構成を自動取得しない場合および、固定IPアドレスを使用している場合
 1. 「DNS ドメイン」の欄にDNSサーバーのデフォルトドメインを入力してください。
 2. DNSサーバーのIPアドレスを「DNSサーバ」欄に入力します。
DNSサーバーのIPアドレスは最大で5つまで設定できます。

5 DNSに対してリトライを行う回数を指定します。

6 DNS応答のタイムアウト時間を「DNSタイムアウト」欄に入力します。

7 「適用」をクリックし、設定を反映します。

5.4 ネットワーク設定の初期値

ネットワーク設定メニューの初期値です。

「5.1 イーサネット設定 (IPアドレスの設定)」、「5.2 セッションタイムアウト時間の設定」、「5.3 DNS設定」で説明がない項目については、初期値から設定を変更しないでください。

■ イーサネット設定

ネットワークインターフェース設定

※ 本項目は設定を変更しないでください。

項目名	初期値	説明
MACアドレス	—	iRMC内蔵LANコントローラーのMACアドレスが表示されます。
LAN接続速度	自動検出	LANの速度を指定します。 「自動検出」は、自動的に正しい伝送速度および全二重または半二重方式の接続方法を決定します。
Max. Transmission Unit (MTU)	1500	通信時に1回の転送 (1フレーム) で送信できるデータの最大値を指定します。
IPv4有効	チェックあり	IPv4アドレスシングルを有効または無効にします。 ※ IPv4を使用してアクセスしているとき、本設定は変更できません。
IPv6有効	チェックあり	IPv6アドレスシングルを有効または無効にします。 ※ IPv6を使用してアクセスしているとき、本設定は変更できません。

□ IPv4設定

※「1.1 IPアドレスの設定」(→P.6)で値を変更した場合、初期値とは異なる値が指定されています。

項目	初期値	説明
IPアドレス	0.0.0.0	iRMC内蔵LANコントローラーのIPアドレスを指定します。
サブネットマスク	0.0.0.0	iRMC内蔵LANコントローラーのサブネットマスクを指定します。
ゲートウェイ	0.0.0.0	iRMC内蔵LANコントローラーが参加するLAN内のデフォルトゲートウェイのIPv4アドレスを指定します。
DHCP有効	チェックあり	DHCPの有効／無効を指定します。 ※ ネットワーク上にDHCPサーバーが存在しない場合は、有効にしないでください。

□ IPv6設定

※ 本項目は設定を変更しないでください。

項目	初期値	説明
手動IPv6設定	チェックなし	IPv6設定を手動で行うかどうかを選択します。 ご購入時は無効に設定されています。

□ VLAN設定

※ 本項目は設定を変更しないでください。

項目	初期値	説明
VLAN有効	チェックなし	iRMCのVLANサポート機能を有効にします。
VLAN ID	0	iRMCが属する仮想ネットワーク (VLAN) のVLAN IDを指定します。 許容される値の範囲は：1 ≤ VLAN ID ≤ 4094までです。
VLAN プライオリティ	0	「VLAN ID」で指定したVLANにおけるiRMCのVLANプライオリティを指定します。許容される値の範囲は0 ≤ VLAN プライオリティ ≤ 7です。

■ ポート設定

□ ポート番号とネットワークサービス設定

※「セッションタイムアウト時間」以外の項目は、設定を変更しないでください。

項目名	初期値	説明
Webアクセス	セッションタイム アウト時間	300 iRMCにログイン後、通信していない時間が指定時間を過ぎると自動でセッションが終了します。
	HTTP ポート	80 iRMCがHTTP通信時に使用するポート番号です。
	HTTPS ポート	443 iRMCがHTTPS通信時に使用するポート番号です。
	HTTPS接続のみ 有効	チェックなし チェックを付けると、iRMCへのログインはHTTPS通信でのみ可能になります。
	自動リフレッシュ 有効	チェックあり チェックを付けると、iRMCの画面は一定時間で自動的に再読み込みされます。
	自動リフレッシュ 間隔	120 「自動リフレッシュ有効」が有効の場合、再読み込みの間隔を設定します。

※ 本項目は設定を変更しないでください。

項目名	初期値	説明
Textアクセス	Telnet ポート	3172 Telnet通信時の使用ポートを指定します。
	Telnet ドロップ アウト時間	600 通信がされていない場合の、自動で遮断する時間を指定します。
	SSH ポート	22 SSH通信時の使用ポートを指定します。
	Telnet 有効	チェックなし Telnet通信の有効／無効を指定します。 ※ Telnet通信はサポートしていません。
	SSH を有効にする	チェックあり SSHを有効にします。

■ DNS設定

□ DNS設定

項目名	初期値	説明
DNS有効	チェックあり	DNSを使用するかどうか指定します。
DHCPからDNS構成を取得する	チェックあり	チェックを付けると、DNSサーバーのIPアドレスをDHCPサーバーから自動的に取得します。
DNS ドメイン	domain.com	「DHCPからDNS構成を取得する」が無効な場合、DNSサーバーのデフォルトドメインを設定します。
DNS検索パス	(空欄)	DNSサーバーを検索するパスを入力します。
DNSサーバ1～3	(空欄)	「DHCPからDNS構成を取得する」が無効な場合、DNSサーバーのIPアドレスを入力します。 最大で3つまで入力可能です。
DNSリトライ	2	DNSのリトライ回数を指定します。
DNSタイムアウト	5	DNS応答のタイムアウト時間（秒）を指定します。

□ DNS登録名

※ 本項目は設定を変更しないでください。

項目名	初期値	説明
DHCPアドレスをDNSに登録	チェックあり	※ IPv6アドレッシングを使用する場合は無効です。DHCPサーバーを使用してiRMCとDNSを登録するための、DHCPサーバーへのDHCP名の転送を有効または無効にします。
DHCPによる完全修飾ドメイン名をDNSへ登録	チェックなし	※ IPv6アドレッシングを使用する場合は無効です。DHCPサーバーを使用してiRMCとDNSを登録するための、DHCPサーバーへのFQDN (Fully Qualified Domain Name) の転送を有効または無効にします。
動的DNS有効	チェックあり	動的DNSを使用したDNSレコードのアップデートを有効または無効にします。
ホスト名にiRMC S4を使用する	チェックあり	「iRMC S4名」に入力された文字列が、DNSの登録名として使用されます。
シリアル番号を付加する	チェックあり	iRMCのMACアドレスの最後の3バイトがiRMCの登録名に付加します。
文字列を付加する	チェックなし	「文字列」に入力された文字列を、iRMCの登録名に付加します。
iRMC S4名	iRMC	「ホスト名にiRMC S4を使用する」が有効の場合に、iRMCの登録名に使用する文字列を指定します。
文字列	-iRMC	「文字列を付加する」が有効の場合に、iRMCの登録名に使用する文字列を指定します。

6 センサー確認

本コンピューターに搭載されているセンサーで、ファンの動作状況、コンピューター内部の温度を確認することができます。

POINT

- ▶ その他のセンサーは、本コンピューターではサポートしていません。

6.1 ファンの状態を確認する

- 1 iRMCにログインします（→P.7）。
- 2 画面左部のツリーメニューから「ファン」をクリックします。
「ファン」が表示されていない場合は、ツリーメニューから「センサ」の「+」をクリックして、下位メニューを表示してください。
「システムファン」の状態を確認できます。

●状態アイコンの説明

	測定値が危険のしきい値を超えてています。システムの稼働状態は危険な状態にある可能性があり、最悪の場合データ喪失の危険性があります。
	ファンは正常に動作しています。
	該当する部品は、本コンピューターには搭載していません。

●各項目の説明

センサ名称	監視しているファンの名称です。
回転数 [RPM]	ファンの回転数をRPM (Revolution Per Minute) で表示します。
回転率 [%]	ファンの回転率を表示します。
異常時動作	本コンピューターではサポートしていません。
シャットダウン待ち時間 [秒]	本コンピューターではサポートしていません。
ステータス	ファンの状態が表示されます。
CSS対象	本コンピューターではサポートしていません。

☞ 重 要

- 「選択したファンセンサの異常時動作」および「シャットダウン待ち時間」は変更しないでください。

- 3** ウィンドウ右上の「ログアウト」をクリックし、WEBインターフェースを閉じます。

6.2 温度センサーの状態を確認する

- 1 iRMCにログインします (→P.7)。
- 2 画面左部のツリーメニューから「温度」をクリックします。
「温度」が表示されていない場合は、ツリーメニューから「センサ」の「+」をクリックして、下位メニューを表示してください。
「温度センサ情報」で、各部の温度を確認できます。

選択	番号	センサ名	温度 (C)	警告レベル	危険レベル	異常時動作	ステータス
<input type="checkbox"/>	1	Ambient	26	37	42	自然採集	OK
<input type="checkbox"/>	2	Air-inlet	27	60	65	自然採集	OK
<input type="checkbox"/>	3	CPU	37	81	83	自然採集	OK
<input type="checkbox"/>	4	MEM A	28	78	82	自然採集	OK
<input type="checkbox"/>	5	MEM B	78	82	自然採集	N/A	
<input type="checkbox"/>	6	MEM C	78	82	自然採集	N/A	
<input type="checkbox"/>	7	MEM D	78	82	自然採集	N/A	
<input type="checkbox"/>	8	PCH	43	80	85	自然採集	OK
<input type="checkbox"/>	9	PSU Inlet	27	57	61	自然採集	OK
<input type="checkbox"/>	10	PSU	41	103	107	自然採集	OK
<input type="checkbox"/>	11	PCI-SLOT2	30	80	85	自然採集	OK
<input type="checkbox"/>	12	PCI-SLOT3	33	80	85	自然採集	OK
<input type="checkbox"/>	13	RAID Controller	105	115	自然採集	N/A	

すべて選択 サーバーの異常時動作: (自然採集)
選択したセンサに適用

●状態アイコンの説明

	測定値が危険のしきい値を超えてます。システムの稼働状態は危険な状態にある可能性があり、最悪の場合データ喪失の危険性があります。
	測定値が警告のしきい値を超えてます。設置環境が高温になつてないかどうか確認してください。システムはまだ危険な状態にありませんが、定期的に監視するようにしてください。
	温度はしきい値を超えてなく、正常に動作しています。
	該当するセンサーは、本コンピューターには搭載していません。

●各項目の説明

センサ名称	監視対象の部品の名称です。
温度 [°C]	各部の温度を表示します。
警告レベル	警告レベルと判定する温度です。この温度を超えただけでは装置に異常が起こることはありませんが、設置環境や装置の稼働状態などの継続監視が必要です。
危険レベル	危険レベルと判定する温度です。この温度を超えた場合、装置の動作に異常をきたす可能性があります。
異常時動作	本コンピューターではサポートしていません。
ステータス	温度センサーの状態が表示されます。

重要

- 「選択した温度センサの異常時動作」は変更しないでください。

- 3 ウィンドウ右上の「ログアウト」をクリックし、WEBインターフェースを閉じます。

7 システムイベントログ (SEL)

iRMCが検出したコンピューターの状態や警告を、記録／確認することができます。

7.1 システムイベントログ (SEL) を確認する

- 1 iRMCにログインします (→P.7)。
- 2 画面左部のツリーメニューから「SELの表示」をクリックします。
「SELの表示」が表示されていない場合は、ツリーメニューから「イベントログ」の「+」をクリックして、下位メニューを表示してください。
「システムイベントログ内容」で、本コンピューターのシステムイベントログを確認できます。



発生日時	重 延	エラー コード	発生元	内 容	グルーブ	CSS 分類	
2018年04月06日 09時38分07秒	危険	ME 1.05V	ME 1.05V	'ME 1.05V: Voltage low critical : 0.00 Volt'	System Power	いいえ	
2018年04月06日 09時38分08秒	危険	ME 1.05V	ME 1.05V	'ME 1.05V: Voltage low critical : 0.00 Volt'	System Power	いいえ	
2018年04月06日 09時38分11秒	重 延	(Major)	420019	Node Manager	Management Engine: Image execution failed - backup operational image loaded because operational image is corrupt	Other	いいえ
2018年04月06日 09時38分12秒	重 延	(Major)	420019	Node Manager	Management Engine: Internal error: Error during firmware execution - firmware watchdog timeout	Other	いいえ
2018年04月06日 09時38分13秒	重 延	(Major)	420019	Node Manager	Management Engine: Internal error: Error during firmware execution - firmware watchdog timeout	Other	いいえ
2018年04月06日 09時38分14秒	重 延	(Major)	420019	Node Manager	Management Engine: Internal error: Error during firmware execution - firmware watchdog timeout	Other	いいえ

システムイベントログについては、「7.3 エラーメッセージ」(→P.33)をご覧ください。

- 3 ウィンドウ右上の「ログアウト」をクリックし、WEBインターフェースを閉じます。

7.2 システムイベントログ (SEL) を削除する

■ 重要

- ▶ システムイベントログの削除は、LANアクセス権限が「User」では使用できません。
「LANアクセス権限」については、「2.1 新しいユーザー アカウントの作成」(→P.10) をご覧ください。

- 1 iRMCにログインします (→P.7)。
- 2 画面左部のツリーメニューから「SELの表示」をクリックします。
「SELの表示」が表示されていない場合は、ツリーメニューから「イベントログ」の「+」をクリックして、下位メニューを表示してください。



- 3 「システムイベントログ (SEL) 情報」で「ログのクリア」をクリックします。



- 4 確認画面が出るのでクリアする場合はもう一度「ログのクリア」をクリックします。
一定時間内に「ログのクリア」をクリックしないと、元の画面に戻ります。

7.3 エラーメッセージ

システムイベントログに記録される主なエラーメッセージは、次のとおりです。

メッセージ	解説
F	
'FANn XXX' Fan Failed	該当するファンが故障した疑いがあります。本メッセージが記録されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
M	
'DIMM-XX' Memory: Uncorrectable error (ECC) 'DIMM-XX': Memory module failed (disabled) Fatal NMI	メモリスロット DIMM nn で訂正不可能なエラーが発生しました。本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
P	
POST - No memory installed	装置にメモリが搭載されていないか、正常に認識できていません。 本メッセージが記録されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
Power unit primary power lost	装置稼働中に、外部からの給電が絶たれました。ACケーブルが取り外されたか、瞬断が発生した可能性があります。ACケーブルが確実に接続されているか確認してください。
'PSU': Power supply failed	電源が切れているときに、外部からの給電が絶たれました。ACケーブルが取り外されたから、瞬断が発生した可能性があります。ACケーブルが確実に接続されているか確認してください。
T	
'XXXX': Temperature high critical: **C	該当するセンサーの温度が、危険しきい値を超みました。設置環境の温度が高くないか、吸排気ができる環境になっているか確認してください。それでも本メッセージが記録されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
'XXXX': Temperature high warning: **C	該当するセンサーの温度が、警告しきい値を超みました。設置環境の温度が高くないか、吸排気ができる環境になっているか確認してください。このログが記録されても装置はまだ危険な状態ではありませんが、継続して監視するようにしてください。

8 E-mail通知

本コンピューターには、異常が発生した場合にE-mailで通知をする機能が設られています。E-mail通知を行うには、E-mail送信サーバーの設定と、E-mail送信先アドレスの設定を行う必要があります。

☞ 重 要

- ▶ E-mail通知機能を使用するには、本コンピューターと通信可能なネットワーク内にSMTPサーバーが存在している必要があります。
- ▶ 本機能は、ネットワーク設定を行わないと正常に動作しません。お客様のネットワーク環境にあわせた設定を行ってください。
E-mailが正しく送信されない場合は、「8.3 テストメールとE-mail通知の確認」(→P.39)をご覧になり、問題箇所の特定を行ってください。
なお、ケーブル不良、ネットワークハブの障害など、通信経路上の不具合については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。
- ▶ 本コンピューターのE-mail送信機能は、POP before SMTP（メール送信前に、指定したPOP3サーバーに事前にアクセスする認証方式）に対応しておりません。SMTPサーバーへの認証方式は「認証を行わない」方式か、RFC2554（SMTP認証）に定義された認証方式を使用してください。

8.1 E-mail通知の設定

E-mail送信機能を有効にするには、SMTPサーバー設定と、宛先アドレス（システム管理者やネットワーク管理者のアドレス）を指定する必要があります。また、設定に必要となるSMTPサーバーに関する情報を、ネットワーク管理者に確認する必要があります。

■ SMTPサーバーの情報を確認する

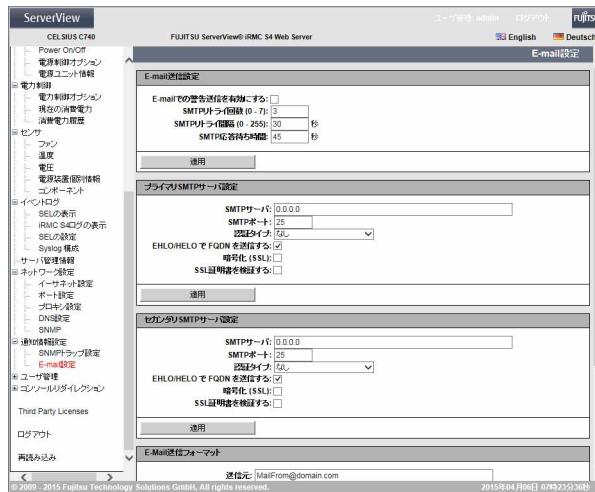
ネットワーク管理者に、SMTPサーバーに関する次の情報を事前に問い合わせ、確認してください。この情報は、E-mail通知の設定を行ううえで必要になります。

- SMTPサーバーのIPアドレスまたはDNS名
- SMTPサーバーとの通信ポート番号
- 認証方式（認証なし、またはRFC2554（SMTP認証）に定義された認証処理）

■ SMTPサーバーの接続設定

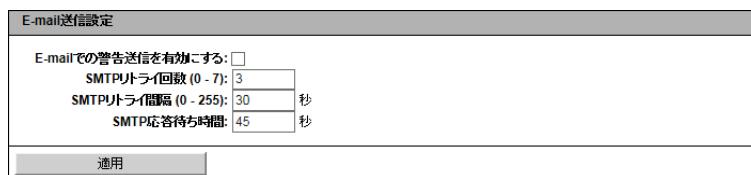
E-mailを送信するSMTPサーバーとの通信設定を行います。

- 1 iRMCにログインします (→P.7)。
- 2 画面左部のツリーメニューから「E-mail設定」をクリックします。
「E-mail設定」が表示されていない場合は、ツリーメニューから「通知情報設定」の「+」をクリックして、下位メニューを表示してください。

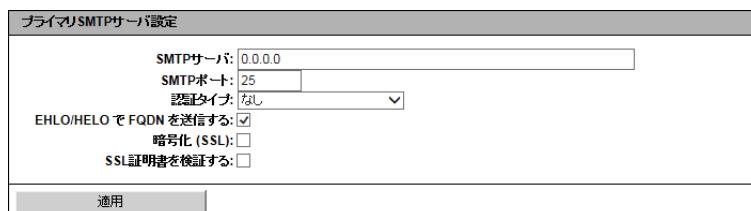


- 3 「E-mail送信設定」の「E-mailでの警告送信を有効にする」にチェックを付け、「適用」をクリックします。

E-mail送信機能が有効になります。



- 4 「プライマリSMTPサーバ設定」を設定します。
SMTPサーバーに接続するため、「■ SMTPサーバーの情報を確認する」 (→P.34) でシステム管理者に確認した次の情報を入力します。



SMTPサーバ	SMTPサーバーのIPアドレス、またはDNS名を入力します。
SMTPポート	SMTPサーバーと通信するときのポート番号を入力します。
認証タイプ	SMTPサーバーが採用している認証タイプに合った設定を指定します。

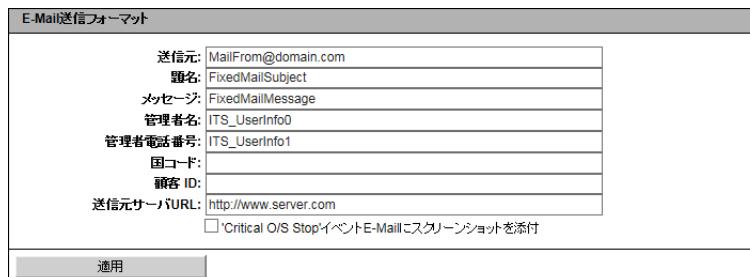
※「EHLO/HELOでFQDNを送信する」はチェックを付けたままにしてください。

5 「適用」をクリックします。

POINT

- ▶ セカンダリSMTPサーバ設定
SMTPサーバーが複数ある場合は、「セカンダリSMTPサーバ設定」を設定します。
SMTPサーバーを1つしか使わない場合は設定不要です。

6 「E-Mail送信フォーマット」を設定します。



「送信元」に、E-mailのヘッダーに記録される送信元メールアドレスを入力します。
E-mailを受信したときに、発信者（送信元）として表示されます。

重要

- ▶ 「送信元」メールアドレスは、初期値のままでもE-mail送信機能を使用できます。
- ▶ 「送信元サーバURL」のアドレスは、本コンピューターでは自動取得されません。
表示が不要な場合は「送信元サーバURL」の欄を削除してください。
- ▶ 「送信元」、「送信元サーバURL」以外の項目は変更しないでください。
- ▶ 「'Critical O/S Stop'イベントE-Mailにスクリーンショットを添付」はサポートしていません。

7 「適用」をクリックし、設定を反映します。

■ E-mail送信アドレスの設定

E-mailを送信する宛先アドレスの設定を行います。

1 iRMCにログインします（→P.7）。

2 画面左部のツリーメニューから「iRMC S4ユーザ管理」をクリックします。

「iRMC S4ユーザ管理」が表示されていない場合は、ツリーメニューから「ユーザ管理」の「+」をクリックして、下位メニューを表示してください。

- 3 「iRMC S4 ユーザ情報」のE-mailを送信する宛先アカウントの名前をクリックします。**

例：「admin」アカウントのE-mail送信設定

iRMC S4 ユーザ情報						
IPMI	SNMPv3	ID	名前	説明	LANアクセス権限	シリアルアクセス権限
はい	いいえ	2	admin	User 02 Description	OEM	OEM
削除						
ユーザーの新規作成						

- 4 「E-mail構成」を設定します。**

1. 「E-mailを有効にする」にチェックを付け、有効にします。
2. 「送信先E-mailアドレス」に、送信する宛先（E-mailアドレス）を入力します。

E-mail構成

E-Mailを有効にする: <input checked="" type="checkbox"/>	暗号化: <input type="checkbox"/>
Mailフォーマット選択: 標準メール	優先Mailサーバー: 自動選択
送信先E-mailアドレス: NewUser@domain.com	
事象毎のMail送信設定	
ファンセンサ: 警告以上 Critical Hardware Errors: すべて送信 POST Errors: すべて送信 システムステータス: なし ネットワークインターフェース: 警告以上 System Power: 警告以上 Other: なし	Temperature Sensors: 警告以上 System Hang: 危険以上 Security: 警告以上 Disk Drivers & Controllers: 危険以上 Remote Management: 危険以上 Memory: 危険以上
<input type="button" value="適用"/> <input type="button" value="テスト"/>	

重要

- 1つのアカウントに対し、指定できるメールアドレスは1つだけです。
複数のアドレスに送信したい場合は、アカウントを新たに作成してください。
- 「事象毎のMail送信設定」は変更しないでください。

- 5 「適用」をクリックし、設定を反映します。**

設定が完了したら、テストメールの送信（→P.38）を行い、メールが正しく送信されることを確認してください。

8.2 テストメールの送信

E-mail送信の設定が完了したら必ずテストメールを送信し、送信が正しくできることを確認してください。

- 1 iRMCにログインします (→P.7)。
- 2 画面左部のツリーメニューから「iRMC S4ユーザ管理」をクリックします。
「iRMC S4ユーザ管理」が表示されていない場合は、ツリーメニューから「ユーザ管理」の「+」をクリックして、下位メニューを表示してください。

- 3 「iRMC S4ユーザ情報」のE-mailを送信する宛先アカウントの名前をクリックします。
例：「admin」アカウントのE-mail送信テスト

- 4 「E-mail構成」の「テスト」をクリックします。

次のような題名のテストメールが送信されます。

テストメールが指定した送信先E-mailアドレスに届いているか、確認してください。

題名 : Test mail from iRMCXXXX (*****@XXX.XXX.XXX.XXX)

※「*****」はテストメールを送信したユーザー情報名が表示されます。

※「XXX」に表示される文字は、装置により異なります。

8.3 テストメールとE-mail通知の確認

テストメールやE-mail通知がうまく届かない場合は、次の順番で問題箇所の特定を行ってください。

- iRMCのシステムイベントログからの原因特定 (→P.39)
- Windowsでの通信の確認 (→P.40)
- Windowsでの通信確認／メール送信 (→P.43)

■ iRMCのシステムイベントログからの原因特定

iRMCのシステムイベントログには、E-mailが正常に送信できなかった場合のエラーログが記録されます。エラーログの内容から、どのような障害が起こっているのかを特定します。

1 iRMCのシステムイベントログを表示します。

システムイベントログの表示は、「7 システムイベントログ (SEL)」(→P.31) をご覧ください。

2 「システムイベントログ内容」の「情報 (info) を表示」にチェックを付け、「適用」をクリックします。



3 表示されたリストに、次のログが記録されていないか確認します。

発生日時	重要度	エラーコード	発生元	内容	グループ	CSS対象
2015年06月09日 13時41分37秒	情報 (Info)	240036	iRMC S4	PAGING: iRMC S4 'test' Email - No connect	None	いいえ
2015年06月09日 13時40分23秒	情報 (Info)	240041	iRMC S4	PAGING: iRMC S4 'test' Email - Bad 'RCPT'	None	いいえ

・ PAGING: iRMC S4 '*****' E-mail - Bad 'RCPT'

・ PAGING: iRMC S4 '*****' E-mail - No connect

※ '*****'はE-mail設定を行ったユーザーアカウント名が表示されます。

4 エラーメッセージの内容を元に、原因を特定します。**●「PAGING: iRMC S4 '*****' E-mail - No connect」と表示される**

原因	対策
SMTPサーバーに到達できません。	SMTPサーバーのIPアドレスまたはDNS名が合っているか確認してください。(→P.34)
	通信ポート番号が合っているか確認してください。(→P.34)
	SMTPサーバーと通信できるネットワーク内にiRMCのIPアドレスが用意されているか確認してください。(※)
	Firewallなどで、通信がブロックされていないか確認してください。(※)

※ ケーブル不良、ネットワークハブの障害など、通信経路による不具合については、ネットワーク担当者にお問い合わせください。

●「PAGING: iRMC S4 '***' E-mail - Bad 'RCPT'」と表示される**

原因	対策
SMTPサーバーにはつながりましたが、E-mailの宛先が存在しません(E-mailアドレスが間違っています)。	宛先E-mailアドレスを、正しいアドレスに直してください。

●エラーメッセージが表示されない

原因	対策
E-mail送信機能が無効になっています。	「E-mailでの警告送信を有効にする」にチェックを付けます。(→P.35)
	「E-mailを有効にする」にチェックを付けます。(→P.37)
	SMTPサーバーのIPアドレスが初期値(0.0.0.0)のままになっている場合、E-mail送信機能は動作しません。正しいIPアドレス、またはDNS名を入力します。(→P.35)
E-mailは正しく送信されていますが、管理者が受信できていません。	迷惑メールフィルターにより、ブロックされている可能性があります。お使いの環境のメールフィルター設定を確認してください。
	お使いの環境のメール受信設定が正しく設定されているか、確認してください。

■ Windowsでの通信確認

「■ iRMCのシステムイベントログからの原因特定」(→P.39)で原因がわからなかった場合、本コンピューターのLANコネクタ2のLANコントローラーとiRMCのIPアドレスを入れ替え、Windows上でpingコマンドやtracertコマンド、E-mailアプリケーションを使用して異常がないか確認を行います。

□ 通信確認環境への設定変更

重要

- ▶ 本手順では、LANポート1を一時的に無効化し、LANポート2のIPアドレスの設定を一時的に変更します。
必ず業務で本コンピューターを使用していないときに確認を行ってください。
- ▶ BIOSセットアップの起動、終了方法については、コンピューター本体の『製品ガイド』をご覧ください。

- 1 BIOSセットアップを起動します。
- 2 「IPMI管理」メニューを選択します。
- 3 「iRMC LAN設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4 次の3つの設定の値を記録します。
 - ・IPアドレス
 - ・サブネットマスク
 - ・デフォルトゲートウェイ

※「IPアドレス設定」が「DHCPを使う」になっている場合、上記3項目の記録は不要です。
- 5 「IPアドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルトゲートウェイ」の値を次のように変更します。
 - ・IPアドレス : 169.254.1.1
 - ・サブネットマスク : 255.255.255.0
 - ・デフォルトゲートウェイ : 0.0.0.0

※上記のIPアドレスをすでに使用している場合は、ネットワーク環境に影響を与えない孤立IPアドレスをネットワーク管理者に確認して指定してください。

※「IPアドレス設定」が「DHCPを使う」になっている場合は、事前に「固定アドレスを使う」に変更してください。
- 6 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
- 7 コンピューターを再起動します。
- 8 コントロールパネルの「ネットワークと共有センター」を開きます。
「ネットワークとインターネット」→「ネットワークと共有センター」
- 9 ウィンドウ左の「アダプター設定の変更」をクリックします。
- 10 LANコネクタ2のLANコントローラーのネットワーク接続アイコンを右クリックし、プロパティをクリックします。
- 11 「インターネットプロトコルバージョン4(TCP/IPv4)」をダブルクリックします。

12 次の3つの設定の値を記録します。

- ・IPアドレス
- ・サブネットマスク
- ・デフォルトゲートウェイ

※「IPアドレスを自動的に取得する」設定になっている場合、記録は不要です。

13 「IPアドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルトゲートウェイ」の値を、手順4で記録した内容に変更します。

※手順4が「DHCPを使う」、手順12が「IPアドレスを自動的に取得する」になっている場合は、設定不要です。

14 「OK」をクリックして設定を保存し、ウィンドウを閉じます。

15 LANコネクタ1のLANコントローラーのネットワーク接続アイコンを右クリックし、「無効にする」をクリックします。

16 開いているウィンドウを閉じます。

17 「コマンドプロンプト」を起動します。

18 「■ Windowsでの通信確認／メール送信」(→P.43) の内容に従い、Windows上で検証を行います。

 **重 要**

▶ 確認が終了したら、必ず次の手順に従って設定を元に戻してください。

通信環境を元に戻す

1 コントロールパネルの「ネットワークと共有センター」を開きます。

「ネットワークとインターネット」→「ネットワークと共有センター」

2 ウィンドウ左の「アダプター設定の変更」をクリックします。

3 LANコネクタ1のLANコントローラーのネットワーク接続アイコンを右クリックし、「有効にする」をクリックします。

4 LANコネクタ2のLANコントローラーのネットワーク接続アイコンを右クリックし、プロパティをクリックします。

5 「インターネットプロトコルバージョン4(TCP/IPv4)」をダブルクリックします。

6 次の3項目の内容を、「□ 通信確認環境への設定変更」の手順12で記録した内容に戻します

「IPアドレスを自動的に取得する」の設定だった場合は、設定を戻します。

- ・IPアドレス
- ・サブネットマスク
- ・デフォルトゲートウェイ

- 7 コンピューターを再起動し、BIOSセットアップを起動します。
- 8 「IPMI管理」メニューを選択します。
- 9 「iRMC LAN設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 10 次の3つの設定の値を、「□ 通信確認環境への設定変更」の手順4で記録した内容に戻します。
 - ・IPアドレス
 - ・サブネットマスク
 - ・デフォルトゲートウェイ

※「IPアドレス設定」が「固定アドレスを使う」になっている場合は、「DHCPを使う」に設定を戻します。
- 11 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。

■ Windowsでの通信確認／メール送信

ここではWindows上でメールの送信を試みます。

E-mailアプリケーションを使用し、iRMCで設定したものと同じSMTPサーバー経由でメールを送信することができるか確認します。

※ 設定方法については、お使いのE-mailアプリケーションのマニュアルをご覧ください。

□ Windows上でメールの送信ができた場合

原因	対策
SMTPサーバーが認証方式にPOP before SMTPを使用している	本コンピューターのE-mail送信機能は、POP before SMTPに対応していません。認証なしか、RFC2554 (SMTP認証) に定義された認証方式を使用するSMTPサーバーを指定してください。
iRMCのE-mail送信機能が正しく動作していません	装置不良の可能性があります。

□ Windows上でメールの送信ができなかった場合

原因	対策
本コンピューターのiRMC機能以外の要因です。	ネットワーク環境またはWindowsの設定に問題があります。

※ 通信経路による不具合については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

■ E-mailのフォーマット

装置に異常が発生した場合や、テストメールを送信すると、次のフォーマットに沿ったメールが送信されます。

● 例：題名

ID : MA0000001 EVT: 23001 TXT: 'FAN1 GFX' : Fan failed

項目	説明
ID	装置号機が記載されます。
EVT	システムイベントログの番号が記載されます。
TXT	障害内容が記載されます。

● 例：本文

Message: 23001 Tue 02 Jun 2015 03:24:58 PM UTC 'FAN1 GFX' : Fan failed
Severity: Critical
CSS Event: no

System Information

Server Type : CELSIUS C740
SerialNumber: MA0000001
BIOS Version: V5.0.0.9 R1.1.0 for D3288-A1x
Server O/S : - unknown -
Server URL : http://www.server.com
SysContact : - unknown -
SysLocation : - unknown -
Server IP :

iRMC S4 Information

FW Version : 7.83.0
FW BuildDate: May 11 2015 20:07:57
SDRR Version: 3.02 ID 0439 C740
URL(0) : http://192.168.11.4

項目	説明
Message	イベントが記載されます。
Severity	重要度が記載されます。Critical障害の場合は対策が必要です。
CSS Event	本コンピューターではサポートしていません。 本項目は無視してください。
Server Type	本コンピューターの品名が記載されます。
SerialNumber	装置号機が記載されます。
BIOS Version	本コンピューターのBIOSのバージョンが記載されます。
Server URL	「E-Mail送信フォーマット」で指定したアドレスが記載されます。
Server Name	「空欄」または「-unknown-」と表示されます。
Server O/S	本コンピューターではこの情報は自動取得されません。 本項目は無視してください。
SysContact	
SysLocation	
ServerIP	
FW Version	iRMCファームウェアの版数が記載されます。
FW BuildData	
SDRR Version	
URL(0)	障害装置のWEBインターフェースのアドレスが記載されます。 WEBインターフェースにアクセス可能なネットワークにいる場合は、URLをクリックすることでログインできます。

8.4 主な送信E-mail内容一覧

イベント	イベントの内容
'FAN* GFX': Fan failed	※「*」には任意の数字が入ります コンピューターの冷却ファンが故障しました。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
'FAN* SYS': Fan failed	コンピューターの冷却ファンが故障しました。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
Power unit primary power lost	コンピューターが稼働中に、電源供給が絶たれました。ACケーブルが外れかかっていないか、停電や瞬断が発生していないか確認してください。
'XXX': Temperature high critical: *** C	※「XXX」には任意の文字列が入ります。 ※「***」には任意の数字が入ります。 コンピューターの温度センサーが、危険しきい値を超えました。コンピューターの設置環境が高温になっていないか確認してください。
'DIMM-XX' Memory Uncorrectable error (ECC)	※「XX」には任意の文字列が入ります。 メモリーに訂正不可能なエラーが発生しました。このエラーが継続して発生する場合メモリーが故障しています。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
'DIMM-XX': Memory module failed (disabled)	※「XX」には任意の文字列が入ります。 メモリーに訂正不可能なエラーが発生しました。このエラーが継続して発生する場合メモリーが故障しています。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
Fatal NMI	メモリーエラーなど、異常が発生したため装置が自動停止しました。このエラーが継続して発生する場合は「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
POST - No video device detected	映像を出力するデバイスが見つからないか、モニターがつながっていません。Windows 8.1をご使用の場合、モニターがグラフィック端子に接続されているか確認してください。
POST - Invalid date/time	日付と時刻が異常です。正しい日付と時刻をBIOSセットアップメニューで指定してください。
POST - No memory installed	メモリーが搭載されていないか、故障しています。このエラーが継続して発生する場合は「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
POST - Front panel NMI / diagnostic interrupt	コンピューター本体前面の「NMIボタン」が押されたときに送信されます。NMIボタンは押さないでください。
Housing opened	コンピューター本体天面が開いた場合に送信されます。コンピューター本体天面は開けないでください。

8.5 E-mail設定の初期値

E-mail設定メニューの初期値と各項目の説明です。

■ E-mail送信設定

項目	初期値	説明
E-mailでの警告 送信を有効にする	チェックなし	「E-mail設定」の有効／無効を設定します。 チェックを外すと、E-mail送信設定は無効になります。
SMTPリトライ回数	3	E-mail送信エラーとなった場合の、リトライ（再送）回数を設定します。
SMTPリトライ間隔	30	リトライを行う間隔（秒）を設定します。
SMTP応答待ち時間	45	SMTPサーバーからのレスポンス（応答）待ち時間（秒）を設定します。

※ E-mail送信で指定するメールサーバーの、メールソフトの種類またはLAN回線の速度などにより、メールが不達エラーとなる場合があります。その場合、「E-mail送信設定」の「SMTP応答待ち時間」の値を大きくしてください。

■ プライマリSMTPサーバ設定

項目	初期値	説明
SMTPサーバ	0.0.0.0	SMTPサーバーのIPアドレスを指定します。DNSが有効の場合はサーバー名でも指定できます。
SMTPポート	25	SMTPで使用するポート番号を指定します。 初期値は25です。
認証タイプ	認証を行わない	SMTPサーバーのユーザー認証タイプを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> 認証を行わない SMTPサーバーはユーザ認証を行いません。 認証を行う（RFC2554） SMTPサーバーはRFC2554（SMTP認証）に定義された認証処理を行います。 ※ POP before SMTPには対応しておりません。
EHLO/HELOで FQDNを送信する	チェックあり	このチェックは外さないでください。

■ E-Mail送信フォーマット

項目	初期値	説明
送信元	MailForm@domain.com	E-mailの送信元アドレスを記入します。 ※ 本機にはE-mailを受信する機能はありません。そのため送信元アドレスには、障害E-mailが届いたときに返信をしたい返信先メールアドレスを入力してください。
題名	FixedMailSubject	ITSフォーマット（未サポート）時のみ反映されるため、使用できません。
メッセージ	FixedMailMessage	変更しないでください。
管理者名	ITS_UserInfo0	
管理者電話番号	ITS_UserInfo1	
国コード	(空欄)	
顧客ID	(空欄)	
装置ID	RMS	REMCSフォーマット（未サポート）時のみ反映されるため、使用できません。 変更しないでください。
送信元サーバURL	http://www.server.com	ここに記載したURLは、E-mail送信時に本文に記載されます。 ※ E-mailはUS-ASCII形式で送信されます。全角文字や半角カナ文字は使用しないでください。

■ E-mail構成

項目	初期値	説明
E-mailを有効にする	チェックなし	チェックを付けることで、指定した宛先アドレスへのE-mail送信機能が有効になります。
Mailフォーマット選択	標準メール	E-mailのフォーマットを指定します。 本項目は「標準メール」から変更しないでください。
優先メールサーバ	自動選択	プライマリSMTPサーバー、セカンダリSMTPサーバーのどちらを優先的に使用するか指定します。通常は「自動選択」のまま変更する必要ありません。
送信先E-mailアドレス	User02@domain.com	E-mailを送信する宛先E-mailアドレスを入力します。
事象毎のMail送信設定	「事象毎のMail送信設定」の初期値の表をご覧ください	各項目でイベントが発生した場合に、メールを送信するしきい値です。 Fan SensorsとTemperature Sensorsが「危険以上」になっていることを確認し、違う場合は修正してください。 ※ 本項目はむやみに変更しないでください。

□ 「事象毎のMail送信設定」 の初期値

項目	初期値	説明
Fan Sensors	危険以上	冷却FANに関する送信しきい値です。 「危険以上」では、FANの故障が疑われる場合に送信します。
Critical Hardware Errors	すべて送信	コンピューターが異常停止するような事象が発生した場合に送信されます。NMIボタンを押したときなどがこれにあたります。
POST Errors	すべて送信	コンピューター起動時に検知した事象に関する送信しきい値です。 メモリー未搭載、日付時刻異常がこれにあたります。
System Status	送信しない	iRMCとBIOSの時刻同期を実施したときなどに記録されます。
Network Interface	警告以上	本コンピューターではサポートしていません。
System Power	警告以上	電源に関する送信しきい値です。 「警告以上」では、電源供給が突然絶たれた（AC抜け、停電など）ときに送信します。
Other	送信しない	本コンピューターではサポートしていません。
Temperature Sensors	危険以上	温度センサーに関する送信しきい値です。 「危険以上」では、コンピューターの継続動作に支障が生じる温度の場合に送信します。
System Hang	危険以上	本コンピューターではサポートしていません。
Security	警告以上	本コンピューターではサポートしていません。
Disk Drivers & Controllers	危険以上	本コンピューターではサポートしていません。
Remote Management	危険以上	iRMC機能に関する送信しきい値です。 「危険以上」ではiRMCの故障が疑われる場合に送信します。
Memory	危険以上	メモリーに関する送信しきい値です。 「危険以上」では、メモリー故障が疑われる場合に送信します。

iRMC
(リモートマネージメントコントローラ)

B5FK-6141-01 Z0-00

発行日 2015年7月
発行責任 富士通株式会社

〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権および
その他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。